

人々の願いを踏まえて選択・判断することができる子どもが育つ社会科学習

名古屋市立白鳥小学校教諭 三 輪 拓 夢

I 研究のねらい

人は日々の中で選択・判断を繰り返して生活している。これらの選択・判断を自分本位ではなく、人々の願いを踏まえて行えるようにすることが、これからの社会では必要になっていく。なぜなら、多様化が進む現代社会において、様々な立場や価値観をもつ人々の願いを踏まえて選択・判断することが、これから社会の形成者となっていく子どもに求められる資質であると考えられるからである。

小学校学習指導要領解説社会編では、4年生の県内の伝統や文化、先人の働きにおける学習内容について人々の願いを捉えることや、自分たちにできることを考えたり、選択・判断したりできるよう配慮する必要があることが述べられている。そこで、本研究では自分ができることとして、人々の願いをかなえるためにどのような取組をしていくとよいのか、選択・判断して提案する活動を取り入れることにした。これまでの私の実践では、人々の願いを踏まえて取組を選択・判断できなかつたり、自分本位な選択・判断をしてしまつたりする姿が見られた。これは、社会的事象について学習していく中で、人々の願いを捉えることができていることや、選択・判断する段階で捉えた願いを意識できていなかったり、それぞれの取組の特性を把握できていなかったりしたことが原因だと考える。

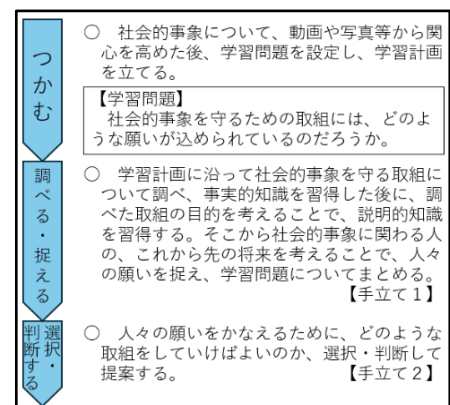
岡山理科大学准教授紙田路子氏は、社会科学習の事実認識について、「①問いを基に収集した知識（事実に知識）の習得」「②『なぜ』あるいは『何』という問いを基にして、事象について説明する知識（説明的知識）の習得」という認識過程が必要であると述べている。本研究では、子どもの発達段階を鑑み、社会的事象を守るための取組（事実に知識）について、なぜ行われているのか目的を考えることで、説明的知識を習得する。それを活用することで、取組に込められた人々の願いを捉えることができるようにする。さらに、捉えた願いを踏まえて選択・判断することができるように、それらの願いをかなえるためには、どのような取組をすればよいか、社会的事象に関わる人に提案する活動を行う。その際に、より妥当な取組を提案することができるようにそれぞれの取組の特性を把握し、それを基に選択・判断することができるようにする。これらの活動を通して、人々の願いを踏まえて選択・判断することができる子どもの育成を目指していく。

II 研究の方法

1 研究の対象 名古屋市立白鳥小学校 第4学年 25人

2 基本的な考え

本研究では、「つかむ」「調べる・捉える」「選択・判断する」という段階を設定して、実践に取り組む【資料1】。「つかむ」段階では、社会的事象について、動画や写真等から関心を高めた後に学習問題を設定し、学習計画を立てる。「調べる・捉える」段階では、社会的事象を守るための取組を調べ、事実に知識を習得した後に、調べた取組の目的を考えることで、説明的知識を習得する。そこから社会的事象に関わる人の、これから先の将来を



【資料1 基本的な学習の流れ】

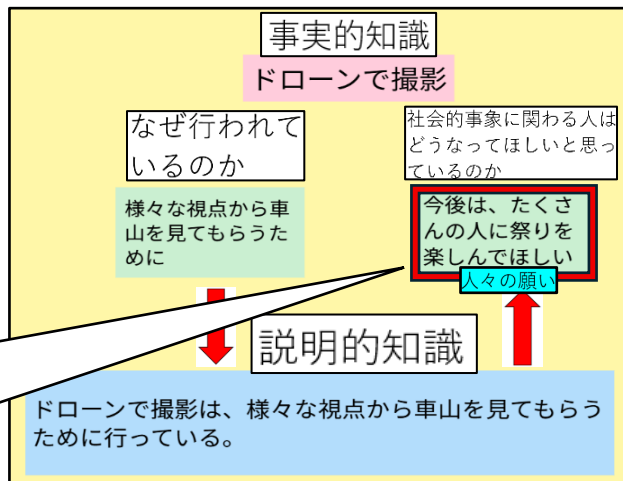
考えることで、人々の願いを捉え、学習問題についてまとめる。「選択・判断する」段階では、人々の願いをかなえるために、どのような取組をしていけばよいのか、選択・判断し、社会的事象に関わる人に提案する。その中でも、「社会的事象に込められた人々の願いを捉える活動」と「人々の願いを踏まえて選択・判断する活動」において、以下のような手立てを講じることにした。

(1) 社会的事象に込められた人々の願いを捉える活動の工夫

「調べる・捉える」段階で、調べ学習を進める際に、「願い発見シート」を活用する【資料2】。一つ一つの取組（事实的知識）について「なぜ行われているのか」を考えることで、説明的知識を習得する。そこから「社会的事象に関わる人はどうなってほしいと思っているのか」を考えることで、取組に込められた願いについて捉える。その後、それぞれの「願い発見シート」を基に、学習問題についてまとめる。この活動を通して、社会的事象に込められた人々の願いを捉えることができるようになることを考える。

「説明的知識」を習得して「社会的事象に関わる人はどうなってほしいと思っているのか」を考え、願いを記述することができていれば「社会的事象に込められた人々の願いを捉える」ことができていることとする。

事实的知識	
・古い町並みの維持	・小学校でのからくり実演
・施設の設定	・笛や太鼓・からくりの練習
・ドローンで撮影	・車山の解体



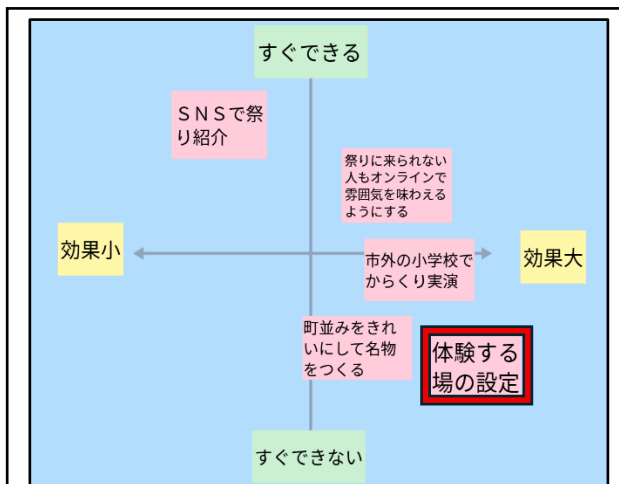
【資料2 「願い発見シート」】

(2) 人々の願いを踏まえて選択・判断する活動の工夫

「選択・判断する」段階で、まず、「願い発見シート」を活用して捉えた取組に込められた願いと、社会的事象に関わる人に実際に聞いた願いを比較し、一致していることを確認する。次に、その願いをかなえることができる取組を複数考え、学級全体で共有する。その後「取組選択シート」を活用して、どの取組を行うのがよいのかを考える活動を行う。

「取組選択シート」では、まず、取組について「効果の大きさ」「時間の掛かり具合」といった基準から2軸チャートの上に整理し、特性を把握する。次に、それらの特性を参考にして、より妥当な取組を選んで理由を記述する【資料3】。この活動を通して、人々の願いを踏まえて選択・判断することができるようになることを考える。

2軸チャートを活用して把握した取組の特性についての記述（破線）と、人々の願いについての記述（実線）があれば「人々の願いを踏まえて選択・判断する」ことができていることとする。



わたしは
笛・太鼓・からくりを体験する場をつくること
 を提案します！

この取組を選んだ理由
 なぜかというと、笛・太鼓・からくりを体験するためには場所も教えてくれる人も必要だからすぐにはできないと思う。けれど、見るだけ・聞くだけではなく、実際に体験をすることができれば、興味をもつ人はたくさん増えると思うから、効果が大きいと思う。また、このような新しい取組をしていけば、若い世代も興味が出て「若い世代に祭りの魅力を伝えたい」という願いをかなえることにもつながるのではないかなと思う。

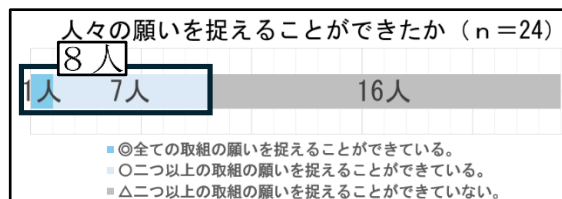
【資料3 「取組選択シート」】

Ⅲ 子どもの実態

- 1 調査日 5月21日～6月2日
- 2 調査方法 プレ実践における記述分析
- 3 調査対象 名古屋市立白鳥小学校 第4学年 24人（在籍25人 欠席1人）
- 4 記述調査の結果と考察

(1) 人々の願いを捉えることができたか（調査1）

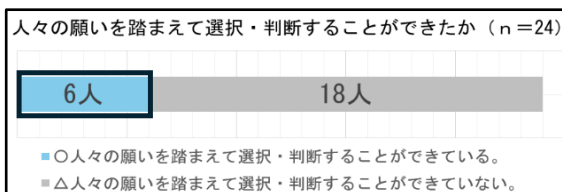
単元「発展してきた名古屋港」において、学習問題「名古屋港を守るための取組には、どのような願いが込められているのだろうか」を設定し、学習を進めたところ「もっと便利な港になって、大きな港になってほしいという願いから、しゅんせつ工事を行った」というように、取組に込められた社会的事象に関わる人の願いを二つ以上捉えることができていない子どもは24人中16人であった【資料4】。これは、段階を踏まずに、いきなり願いを捉えさせたことが原因であると考えられる。本研究では、事実に基づく知識として習得した取組が「なぜ行われているのか」を考えることで説明的知識を習得し、「社会的事象に関わる人はどうなっていてほしいと思っているのか」を考えることで、人々の願いを捉えることができるようにする。



【資料4 願いを捉える場面での分析結果】

(2) 人々の願いを踏まえて選択・判断することができたか（調査2）

単元「発展してきた名古屋港」において、これから名古屋港がより発展するために必要な取組について複数考え、取組を選択・判断させたところ、人々の願いを踏まえて選択・判断することができていない子どもは、24人中6人であった【資料5】。記述内容を分析すると、選択・判断する際に、より妥当な取組を選択することができていない子どもや「災害に強い港をつくるのが優先だと思うから、防波堤を頑丈にする」というように、人々の願いを踏まえることができていない子どもが18人いた。これは、取組の特性を把握できていないことや、選択・判断した取組に、どのような願いが込められているのかを考慮することができていないことが原因であると考えられる。本研究では、まず、人々の願いを確認して、それをかなえるための取組を複数考え、それらの取組について2軸チャートを活用して整理し、取組の特性を把握することで、人々の願いを踏まえて選択・判断することができるようにする。



【資料5 選択・判断する場面での分析結果】

5 観察する子どもについて

実態調査の結果から、本研究で観察する子どもを3人抽出した。結果は以下に示すとおりである。

	調査1	調査2	子どもの実態
A児	△	△	調べ学習を進めていく中で、取組に込められた人々の願いを一つしか捉えることができていない。また、人々の願いを踏まえ、取組について選択・判断する際に、取組を選択することはできているものの、人々の願いを踏まえることができていない。
B児	△	△	調べ学習を進めていく中で、取組について調べることはできているが、そこに込められた人々の願いを捉えることができていない。また、願いを共有し、捉えた上で取組について選択・判断する際に、取組を選択することはできているものの、人々の願いを踏まえることができていない。
C児	△	△	調べ学習を進めていく中で、自力で取組について調べることはできていないが、声掛けをすることで取組について調べることができている。しかし、そこに込められた人々の願いを捉えることができていない。また、願いを共有し、捉えた上で取組について選択・判断する際に、教師の声掛けによって、取組は選択することができているものの、人々の願いを踏まえることができていない。

IV 第1次授業研究（6月）

1 単元 受けつがれてきた犬山祭

2 目標

犬山祭の発展や継承に関わる取組について取り上げ、犬山祭に関わる人が、どのような取組を行っているのかを調べ、それらの取組がなぜ行われているのかを考えることで、犬山祭に込められた人々の願いを捉えることができるようにする。また、どのような取組をしていけば、人々の願いを踏まえることができるのかを考え、適切に表現することができるようにする。

3 検証項目

- (1) 説明的知識を基に「社会的事象に関わる人はどうなってほしいと思っているのか」を考える活動は、人々の願いを捉えるために有効か、「願い発見シート」の記述内容からつかむ。
- (2) 人々の願いをかなえるための取組を複数考えた上で、それらの取組について、2軸チャートを活用して整理し、より妥当な取組を考えることは、人々の願いを踏まえて選択・判断するために有効か、「取組選択シート」の記述内容からつかむ。

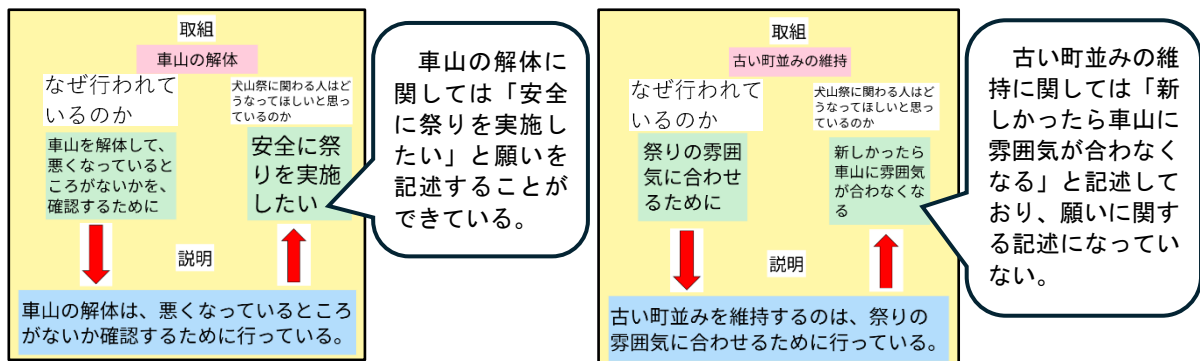
4 実践の概要（11時間完了）

段階	主な学習活動
つかむ	第1時 熱田まつりについて熱田まつりに関わる人から話を聞き、祭りに対する意欲を高める。 第2時 犬山祭の様子を動画や写真等から知り、古くから続いている祭りであることを捉え、学習問題をつくる。 学習問題：犬山祭を守るための取組には、どのような願いが込められているのだろうか。
調べる・捉える	第3～6時 「願い発見シート」を活用して、犬山祭を守るための六つの取組について、事実に知識を習得して「なぜ行われているのか」を考えることで、説明的知識を習得する。その後、「犬山祭に関わる人はどうなってほしいと思っているのか」を考え、人々の願いを捉える。 【検証場面1】 第7時 学習問題のまとめを行う。
選択・判断する	第8時 人々の願いをかなえるために、どのような取組をすればよいのかを考える。 第9～10時 「取組選択シート」を活用して、考えた取組について「効果の大きさ」「時間の掛かり具合」について、2軸チャートを活用して整理し、より妥当だと思う取組について、人々の願いを踏まえて、選択・判断し、その理由を記述する。 【検証場面2】 第11時 選択・判断した取組とその理由について、犬山祭に関わる人に提案する。

5 第1次授業研究の様子と考察

(1) 検証場面1（第3～6時）

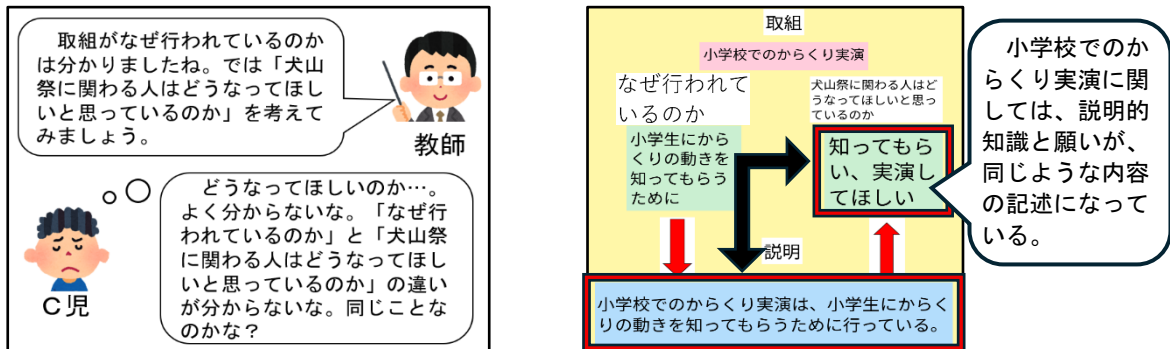
「願い発見シート」を活用して、取組に込められた願いを捉えるために、「犬山祭に関わる人はどうなってほしいと思っているのか」を考えさせた。A児は「車山の解体」という取組がなぜ行われているのかについて、説明的知識として「車山の解体は、悪くなっているところがないか確認するために行っている」を習得し、願いも記述することができていた。一方、「古い町並みの維持」という取組については、願いについての記述にはなっていなかった【資料6】。



【資料6 A児の「願い発見シート」】

C児は「小学校でのからくり実演」といった取組が、なぜ行われているのかについて、教師や友達の声掛けから、「小学生にからくりの動きを知ってもらうために行われているのではないかと考え、

説明的知識として「小学校でのからくり実演は、小学生にからくりの動きを知ってもらうために行っている」を習得していた。一方、取組に込められた願いについては、「犬山祭に関わる人はどうなってほしいと思っているのか」という教師の発問を理解することができずに困惑する姿が見られ、説明的知識と似た内容を記述しており、人々の願いを捉えることができていなかった【資料7】。



【資料7 C児の活動の様子と「願い発見シート」】

(2) 検証場面1の結果と考察

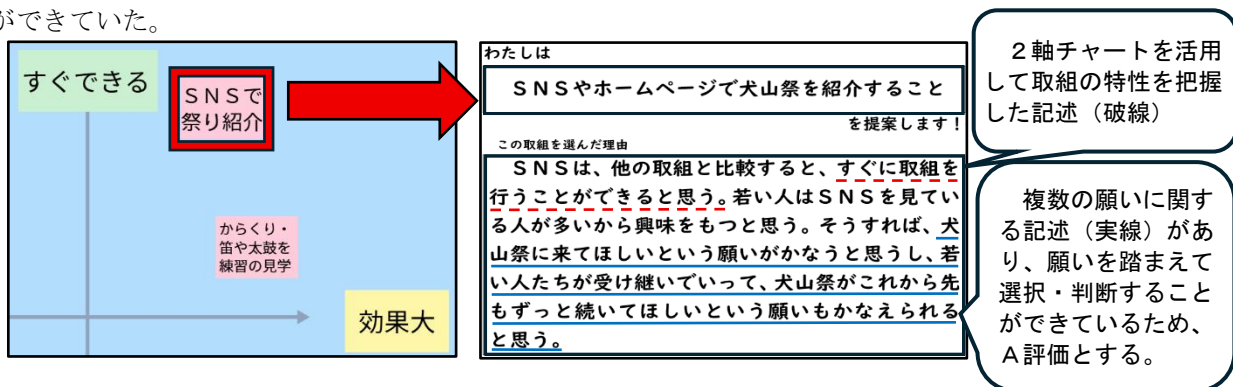
A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
一つ一つの取組に込められた人々の願いを全て捉えることができています。	一つ一つの取組に込められた人々の願いを二つ以上捉えることができています。	一つ一つの取組に込められた人々の願いを二つ以上捉えることができていない。
20人		5人(C児)
4人	16人(A児・B児)	

A児・B児のように、人々の願いを二つ以上捉えることができた子どもは25人中20人であった。これは、願いを捉える前に、「願い発見シート」を活用して、取組が「なぜ行われているのか」を考えることで、説明的知識を習得し、願いを捉えることが容易になったからであると考えられる。

一方、C児のように、人々の願いを二つ以上捉えることができなかった子どもが5人いた。記述内容を見ると、説明的知識と願いを記述する際に、同じ内容になってしまったり、願いの記述ができていなかったりしていた。これは、「どうなってほしいと思っているのか」という発問では、社会的事象に関わる人の、これから先の将来に目を向けることができなかったことが原因であると考えられる。

(3) 検証場面2 (第9~10時)

2軸チャートを活用して、それぞれの取組について整理した後で、人々の願いを踏まえた、より妥当な取組について選択・判断し、選んだ理由も記述させた。A児は、「すぐにできる取組がよい」と考え、2軸チャートを活用して整理することで、取組の特性を把握し、「SNSやホームページで犬山祭を紹介する」という取組を選択した。また、この取組をすると「犬山祭に実際に来てほしい」という願いや、「犬山祭がずっと続いてほしい」といった願いをかなえられるのではないかと考え、「取組選択シート」に以下のように記述した【資料8】。このように、A児は複数の願いを踏まえた上で、取組を選択・判断することができていた。



【資料8 A児の「取組選択シート」】

B児も、「すぐにできる取組がよい」と考え、2軸チャートを活用して整理することで、取組の特性を把握し、「SNSやホームページで犬山祭を紹介する」という取組を選択した。この取組をすると、「犬山祭に実際に来てほしい」という願いをかなえられるのではないかと考えた。一方、それ以外の願いを踏まえることはできていなかった【資料9】。

【資料9 B児の「取組選択シート」】

2軸チャートを活用して取組の特性を把握した記述（破線）

一つの願いに関する記述（実線）があり、願いを踏まえて選択・判断することができているため、B評価とする。

C児は初め、取組を選択することができていなかった。教師とどのような取組がよいかを確認し、「効果が大きい取組がよい」と考えることができた。その後、2軸チャートを活用して整理することで、取組の特性を把握し、「からくりや笛・太鼓を練習しているところを見ることができるようにする」という取組を選択した。しかし、その取組を選択した理由を書くことはできなかった。

(4) 検証場面2の結果と考察（3人欠席）

A（十分満足できる）	B（おおむね満足できる）	C（努力を要する）
複数の願いを踏まえた上で、取組を選択・判断することができる。	一つの願いを踏まえた上で、取組を選択・判断することができる。	願いを踏まえた上で、取組を選択・判断することができていない。
13人		9人（C児）
6人（A児）	7人（B児）	

A児・B児のように、願いを踏まえて選択・判断することができた子どもは22人中13人であった。これは、「取組選択シート」を活用して、人々の願いをかなえるための取組を考えさせた後に、それらの取組について2軸チャートに整理することが、取組の特性を把握し、人々の願いを踏まえて選択・判断することにつながったと考える。

一方、C児のように、願いを踏まえて選択・判断することができない子どもが9人いた。2軸チャートに整理することで、取組の特性を把握し、選択・判断することはできているものの、人々の願いを踏まえることはできていなかった。これは、取組を選択・判断する際に取組の特性を重視するあまり、人々の願いを関連付けて考えることができなかったことが原因であると考えられる。

V 長期研修で学んだこと

1 東北学院大学 教授 佐藤 正寿 氏

佐藤氏からは、願いとはどのようなものなのかを、子どもが理解することができるように発問・指示を精選することが重要であると御指導いただいた。第2次授業研究では、願いを捉えさせる発問や指示を、社会的事象に関わる人の、これから先の将来に目を向けることができるような言葉にすることで、目指す子ども像に迫っていく。

2 植草学園大学 教授 梅澤 真一 氏

梅澤氏からは、子どもが願いを踏まえて選択・判断する際には、どのような願いを踏まえたのかを、子どもが明確に理解することができるようにすることが重要であり、どのような願いを踏まえて選択・判断したのか、確認する機会を設ける必要があると御指導いただいた。また、子どもが切実感をもつような問題を選択・判断させるとよいことを御指導いただいた。第2次授業研究では、子どもが選択・判断

する際にどのような願いを基に、選択・判断をしたのかをチェック欄を作成して確認する時間を設けたり、子どもが切実感をもてるように、学習する社会的事象の課題を解決することをテーマに設定したりすることで、目指す子ども像に迫っていく。

3 岡山理科大学 准教授 紙田 路子 氏

紙田氏からは、事実に知識と説明的知識を習得する際に留意することを御指導いただいた。事実に知識を習得する際には、どのような活動を行うかによって習得するものが変わるので、精選する必要があることを学んだ。説明的知識を習得する際には、取組が行われている理由を問い、どのような事実に知識を基に習得するのかを考えるとよいことを御指導いただいた。第2次授業研究では、取組を選択・判断させる際に適した事実に知識を精選したり、説明的知識を習得する際に、必要に応じて、新たに事実に知識を習得する時間を設けたりしていく。

4 立命館大学 教授 角田 将士 氏

角田氏からは、子どもに選択・判断させる際には、どの立場から選択・判断するのかを明確にする必要があると御指導いただいた。また、2軸チャートで活用する基準について、その基準で整理するとどのような良さがあるのかを、確認する必要があることを御指導いただいた。第2次授業研究では、「社会的事象に関わる人」の立場から選択・判断することを確認したり、2軸チャートの基準の良さを確認する時間を設け、整理する意味を実感させたりする活動を取り入れていく。

VI 第2次授業研究に向けての改善点

1 検証項目1について

人々の願いを捉える際に「社会的事象に関わる人がどのような未来になってほしいと思っているのか」と、将来に目を向けた言葉を示すことで、人々の願いを捉えることができるようにする。

2 検証項目2について

まず、人々の願いを踏まえた取組について選択・判断する前に、学級で願いを振り返りながら、選択・判断する際に活用できるチェック欄を作成する。次に、取組を行うとどのような願いをかなえることができるのかを、チェック欄を活用して確認することで、取組を人々の願いと結び付け、それを踏まえて選択・判断することができるようにする【資料10】。

この取組をすると…
<input type="checkbox"/> 瀬戸焼について興味をもってほしい
<input type="checkbox"/> 瀬戸焼をもっと使ってほしい
<input type="checkbox"/> 瀬戸市に来てほしい
<input type="checkbox"/> これからも瀬戸焼を受け継いでいってほしい という願いがかなう！！

【資料10 活用するチェック欄】

VII 第2次授業研究（9～10月）

1 単元 陶磁器をつくるまち・瀬戸市

2 目標

瀬戸焼の保存や継承に関わる取組について取り上げ、瀬戸焼に関わる人が、どのような取組を行っているのかを調べ、それらの取組がなぜ行われているのかを考えることで、瀬戸焼に込められた人々の願いを捉えることができるようにする。また、どのような取組をしていけば、人々の願いを踏まえることができるのかを考え、適切に表現することができるようにする。

3 検証項目

- (1) 説明的知識を基に「社会的事象に関わる人がどのような未来になってほしいと思っているのか」を考える活動は、人々の願いを捉えるために有効か、「願い発見シート」の記述内容からつかむ。
- (2) 2軸チャートを活用して取組について整理し、より妥当な取組を考えたと、その取組を行うと、どのような願いをかなえることができるのかを、チェック欄を活用して確認することは、人々の願いを踏まえて選択・判断するために有効か、「取組選択シート」の記述内容からつかむ。

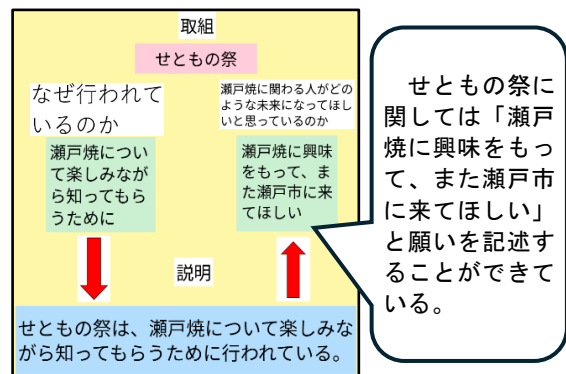
4 実践の概要（11時間完了）

段階	主な学習活動
つかむ	第1時 瀬戸焼について瀬戸蔵ミュージアムの人から話を聞き、陶磁器に対する意欲を高める。 第2時 瀬戸焼の特徴を動画や写真等から知り、1000年以上続いている伝統工芸品であることを捉え、学習問題をつくる。 学習問題：瀬戸焼を守るための取組には、どのような願いが込められているのだろうか。
調べる・捉える	第3～6時 「願い発見シート」を活用して、瀬戸焼を守るための六つの取組について、事実に知識を習得して「なぜ行われているのか」を考えることで、説明的知識を習得する。その後、「瀬戸焼に関わる人がどのような未来になってほしいと思っているのか」を考え、人々の願いを捉える。 【検証場面1】 第7時 学習問題のまとめを行う。
選択・判断する	第8時 人々の願いをかなえるために、どのような取組をすればよいかを考える。 第9～10時 「取組選択シート」を活用して、考えた取組について「効果の大きさ」「時間の掛かり具合」について、2軸チャートを活用して整理し、「後継者不足」という、課題を解決する上で、より妥当だと思う取組について人々の願いを踏まえて、選択・判断し、その理由を記述する。 【検証場面2】 第11時 選択・判断した取組とその理由について、瀬戸焼に関わる人に提案する。

5 第2次授業研究の様子と考察

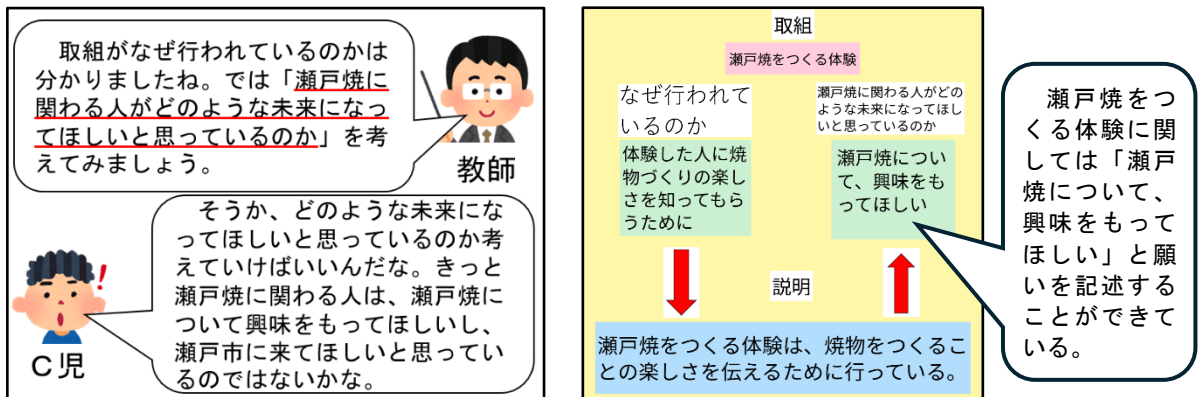
(1) 検証場面1（第3～6時）

「願い発見シート」を活用して、取組に込められた願いを捉えるために、「瀬戸焼に関わる人がどのような未来になってほしいと思っているのか」を考えさせた。A児は「せともの祭」という取組がなぜ行われているのかについて、説明的知識として「せともの祭は、瀬戸焼について楽しみながら知ってもらうために行われている」を習得し、「瀬戸焼に関わる人がどのような未来になってほしいと思っているのか」を考えることで願いを捉えることができた【資料11】。この「願い発見シート」のように、A児は全ての取組について、説明的知識から人々の願いを捉えることができていた。



【資料11 A児の「願い発見シート」】

C児は「瀬戸焼をつくる体験」という取組が、なぜ行われているのかを考え、説明的知識として「瀬戸焼をつくる体験は、焼物をつくることの楽しさを伝えるために行っている」を習得した。また、願いについては、「瀬戸焼に関わる人がどのような未来になってほしいと思っているのか」という発問から、将来に目を向けることができるようになったことで、取組に込められた人々の願いを捉えることができた。【資料12】。また、瀬戸市という町全体を大きなミュージアムのようにする「せと・まるっとミュージアム」という取組には「瀬戸市に来てほしい」という願いが込められていることも捉えることができた。このようにC児は、全ての取組に込められた願いを捉えることこそできなかったものの、取組に込められた願いを二つ以上捉えることができていた。



【資料12 C児の活動の様子と「願い発見シート」】

(2) 検証場面 1 の考察 (2 人欠席)

A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
一つ一つの取組に込められた人々の願いを全て捉えることができている。	一つ一つの取組に込められた人々の願いを二つ以上捉えることができている。	一つ一つの取組に込められた人々の願いを二つ以上捉えることができていない。
23人		0人
8人 (A児・B児)	15人 (C児)	

全ての子どもが、社会的事象に関わる人の取組に込められた人々の願いを二つ以上捉えることができた。これは人々の願いを「瀬戸焼に関わる人がどのような未来になってほしいと思っているのか」と、将来に目を向けた言葉で示すことが、子どもが願いとはどのようなものであるのかを理解し、人々の願いを捉えることにつながったからだと考える。

(3) 検証場面 2 (第 9～10時)

2軸チャートを活用して、それぞれの取組について整理した後で、「後継者不足」という課題を解決する上で、人々の願いを踏まえた、より妥当だと思う取組について選択・判断し、選んだ理由も記述させた。また、願いを踏まえることができているか確認するために、チェック欄を活用した。

B児は、2軸チャートを基に、「瀬戸蔵ミュージアムなどの施設をインターネットで見ることができる『バーチャルミュージアム』を行う」という取組を選択した。この取組をすると「瀬戸焼について興味をもってほしい」「瀬戸市に来てほしい」「これからも瀬戸焼を受け継いでいってほしい」といった願いをかなえられるのではないかとチェック欄を活用して考え、「取組選択シート」に記述した。このように、B児は複数の願いを踏まえた上で取組を選択・判断することができていた。

C児も、2軸チャートを基に、「瀬戸焼をつくっているところを見ることができるようにする」という取組を選択した。しかし、この取組をすると、どのような願いをかなえることにつながるのかを考えることができずに悩んでいた。そこで、チェック欄を活用して、取組と願いを結び付ける活動を行った。チェック欄を活用することで、この取組をすると「瀬戸焼について興味をもってほしい」「これからも瀬戸焼を受け継いでいってほしい」といった願いをかなえられるのではないかと考えた【資料13】。その後、「取組選択シート」に以下のように記述した【資料14】。このように、C児も複数の願いを踏まえた上で取組を選択・判断することができていた。

【資料13 C児の2軸チャートとチェック欄の記述】

【資料14 C児の「取組選択シート」】

(4) 検証場面2の結果と考察（3人欠席）

A（十分満足できる）	B（おおむね満足できる）	C（努力を要する）
複数の願いを踏まえた上で、取組を選択・判断することができている。	一つの願いを踏まえた上で、取組を選択・判断することができている。	願いを踏まえた上で、取組を選択・判断することができていない。
20人		2人
15人（A児・B児・C児）	5人	

願いを踏まえて選択・判断することができた子どもは22人中20人であった。これは、2軸チャートを活用して取組について整理することで特性を把握し、より妥当な取組を考えた上で、チェック欄を活用して、その取組を行うとどのような願いをかなえることができるのかを確認することが、人々の願いを踏まえて選択・判断することを容易にしたためであると考えられる。

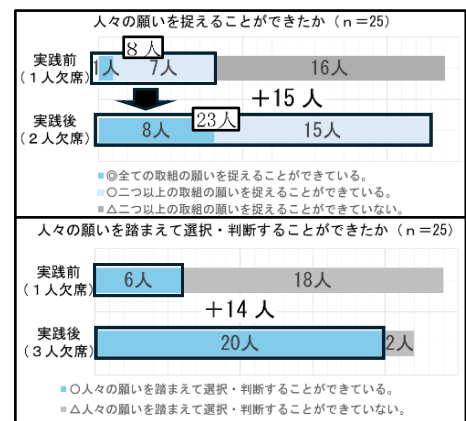
一方、願いを踏まえて選択・判断することができていない子どもが2人いた。これは、選択・判断した取組を行うと、どの願いをかなえることができるのか、関連性を捉えることができなかったことが原因であると考えられる。

VIII 研究のまとめ

1 研究から明らかになったこと

(1) 人々の願いを踏まえて選択・判断することができる子どもの育成

授業研究を通して、人々の願いを捉えることができた子どもが8人から23人に増加した。また、人々の願いを踏まえて選択・判断することができた子どもが6人から20人に増加した【資料15】。願いを捉えるために、事實的知識から説明的知識を習得するという段階を踏まえたり、将来に目を向けさせる発問をしたりすることや、2軸チャートを活用して取組を整理したり、チェック欄を活用して願いを確認したりすることが、人々の願いを踏まえて選択・判断する子どもを育てる上で有効であることが明らかになった。



【資料15】子どもの変容のグラフ

(2) 実践後の子どもの様子

単元「国際交流に取り組むまち・豊橋市」の学習では、国際交流のために行っている取組には様々な願いが込められていることを捉えさせた。C児は「取組選択シート」を活用して、「外国人と日本人が互いの文化を学べるイベントを増やす」という取組が、時間は掛かるが、効果が大きいという特性があることを把握した。また、「異文化を理解してほしい」「誰でも住みやすい市になってほしい」という願いを実現できる取組だとチェック欄を活用して考え、選択・判断することができた。取り上げる社会的事象が異なっていたとしても、人々の願いを踏まえて選択・判断することができた。

2 今後の研究に向けて

本研究では、事實的知識から説明的知識を習得し、それを活用して人々の願いを捉え、その願いを踏まえて取組を選択・判断する活動を通して、目指す子ども像に迫ることができた。一方、選択・判断した取組がどの願いをかなえることにつながるのか、関連性を捉えることができない子どもの姿が見られた。今後は、取組と願いの関連性を振り返り、なぜその取組を選択・判断したのか立ち返る活動を取り入れることで、更に人々の願いを踏まえて選択・判断することができる子どもを育てていきたい。